

# 森がすくすく 川がいきいき 人が元気



## 新年のあいさつ

鬼北町議会議長 坂本 末光

新年あけましておめでとうございます。平成18年の年頭にあたり、町議会を代表しまして謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

町民の皆様におかれましては、お健やかに明るくご家族お揃いで、希望に満ちた新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。皆さまのお蔭で「森がすくすく、川がいきいき、人が元気」新生鬼北町も無事一周年を迎えることができました。

さて、今日の国および地方にとつて、財政の硬直化、少子高齢化問題の深刻化が一番の問題となっております。財政の硬直化にともなう行政組織機構の改革が進められ、県においても組織機構の整理統合が進められ、周辺市町にもその波が押し寄せてきております。

鬼北町においては、県立北宇和病院がその影響を受けました。県の行財政を第三者がチェックする包括外部監査で、北宇和病院継続は累積赤字を増加させる一方なので、廃止の方向で検討すべきとの意見が提出されました。県はそれを受けて検討委員会を設置し、平成16年3月末に廃止との方向を打ち出しました。その後、地元町としては存続と拡充を訴える活動を展開してまいりましたが、協議検討の結果、県が示した公設民営化

方式を受け入れることとなりました。公設民営化にあたっては、県に支援を要請し、県と協議を続けた結果、指定管理者に「旭川荘」が決定され、まず一安心というところであります。本年4月より、鬼北町立北宇和病院として旭川荘が医療業務を引き受けていただき開院する運びとなりますので、どうかご安心ください。

当町の重大課題である北宇和病院問題は、今後、全町民の皆さまのご理解と力強いご協力により、どうか解決することができると考えております。今後は、鬼北町が、北宇和病院を含め、安全で安心安定した暮らしのできる福祉の町として発展することを願うものであります。

私たち議会人といたしましても、町政重要課題に対し役割の重大さを深く自覚し、町民の皆さまのご期待に応えられるよう全力で取り組む決意であります。

どうか本年も変わらぬご支援とご協力をお願いしまして新年の挨拶といたします。

注 「旭川荘」岡山県、岡山圏域の地域福祉の中核を担っている社会福祉法人。平成15年に国から国立南愛媛病院の経営移譲を受け現在に至っている。